

助産師職能委員会

委員長：松山 栄子

1. 活動方針及び活動目標

- | |
|--|
| 1) 病院で流産・死産を経験した母親に対する支援のための地域と連携システムの構築 |
| 2) タイムリーな課題発見・意見集約 |

2. 活動内容

実施項目 【開催場所】	内 容	開催回数	委員
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1) 流産・死産後に退院した母親の状況について情報共有 2) 医療施設と地域とをつなぐ情報提供票の検討とプレテストの実施 3) 「母子のための地域包括ケアシステムの推進」について情報共有 4) 女性とその家族への支援に必要な体制の整備 ・父親に対する支援	全8回	12名
保健師・助産師職能 合同会議 【マルイトOBPビル】	1) 流産・死産を経験した母親への支援（要支援者情報提供票運用方法・送付フローチャート・記入例・よくある質問）について情報共有・意見交換	12月6日	助産師職能委員 12名 保健師職能委員 10名 大阪府健康医療 部保健医療室 地域保健課母子 グループ 2名

3. 活動実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
保健師・助産師職能 合同会議 【マルイトOBPビル】	ペリネイタルロスケア研修会 講師：大蔵珠己（助産師職能委員）	12月6日	助産師職能委員 12名 保健師職能委員 10名
近畿地区助産師職能 合同研修会 【WEB開催】	講演：「助産師に期待する妊娠期を通しての父親支援」 講師：大阪総合保育大学 阿川勇太 氏	12月21日	191名 (内委員12名)

【活動の概要】

1) 病院で流産・死産を経験した母親に対する支援のための地域との連携システムの構築

要養育支援者情報提供票は、特定妊婦や虐待予防の観点から作成されたものであり、流産・死産された母親の情報提供には適さないため、新たに仕組みを作成した。

- ①要支援者情報提供票（ペリネイタルロスケア版）
- ②要支援者情報提供票（ペリネイタルロスケア版）運用方法
- ③要支援者情報提供票（ペリネイタルロスケア版）送付フローチャート
- ④要支援者情報提供票（ペリネイタルロスケア版）記入例
- ⑤よくあるご質問

＊上記、大阪府看護協会 HP—「活動・取り組み」「委員会活動」「助産師職能委員会」に掲載する

2) 「母子のための地域包括ケア病棟」の普及

- ①「院内助産」「助産師外来」「産科区域特定」「産後ケア」等について情報共有
- ②立ち合い分娩、面会、母親学級等集団指導について情報共有、意見交換し自施設の取り組みに活用

3) 女性とその家族への支援に必要な体制の整備

①父親に対する支援

父親の育児休暇が推進されたが、現状では面会制限もあり、父親指導も不十分な中で父親による子どもの虐待事例の報告や父親のうつ症状の事例の報告があった。それぞれの施設の現状把握と父親への指導方法を共有した。また近畿地区助産師職能委員長会議でも父親への支援が課題となっていたため、近畿地区助産師職能合同研修会で大阪総合保育大学 阿川勇太 氏を講師に「助産師に期待する妊娠期を通しての父親支援」をテーマに研修を開催し、研修内容をそれぞれの施設で共有した。今後も保健師職能委員や大阪府助産師会へも情報共有し、父親への支援体制の検討を継続していく

4. 課題・その他

- 1) 「流産・死産を経験した母親への支援」のための地域との連携体制構築について、作成した要支援者情報提供票（ペリネイタルロスケア版）の運用方法を大阪府下の看護職（産科関連機関で勤務する看護師・助産師・保健師）へ周知
- 2) 女性とその家族への支援に必要な体制の整備
- 3) 地域の助産師・保健師との情報共有、ネットワークの強化